＼ HPで公開中 ／

年に1度は大腸がん検診を受けましょう

最新のがん罹患数（がんになった人）では男性、女性ともに大腸がんが2番目に多く、男女合わせて1位となっています。※表1また、がんで亡くなった人は男性2位、女性1位と男女ともに大腸がんが上位を占めています。※表2
大腸がんは早期に発見できれば治癒できる確率が高くなりますが、早期のうちは症状がほとんどありません。
そのため、定期的に大腸がん検診を受けることが大切です。

※表1　がん罹患数の順位（2020年）

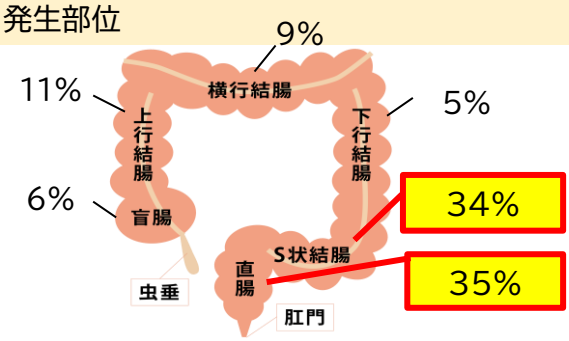
	1位	2位	3位
総数	大腸	肺	胃
男性	前立腺	大腸	肺
女性	乳房	大腸	肺

※表2　がん死亡数の順位（2022年）

	1位	2位	3位
男女計	肺	大腸	胃
男性	肺	大腸	胃
女性	大腸	肺	膵臓

国立がん研究センター2020年集計（がん罹患数）、2022年集計（がん死亡数）

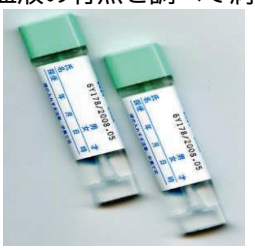
発生部位



大腸がんは、結腸がんと直腸がんに大きく分けられます。
結腸がんはさらに発生する部位に応じて、盲腸がん・上行結腸がん・横行結腸がん・下行結腸がん・S状結腸がんの5つに分かれます。
がんは肛門から15㎝ほどの部分の直腸とその上のS状結腸に集中しており、この部位で全体の約7割を占めます。

大腸がん検診　～便潜血検査について～

40歳以上の方は、厚生労働省が推奨する「大腸がん検診」の対象となる年齢です。
便潜血検査は便に混じった血液を検出する検査です。大腸にがんやポリープがあると、便とこすれて出血することがあり、その血液の有無を調べて病気の疑いを見つけます。



大腸がんの検出率を高めるため、2日分の便を採取する方法が推奨されています。

大腸がん検診として便潜血検査を受けることにより、大腸がんの死亡リスクは60～80%減少することが科学的に証明されています

検診の結果と精密検査

✿異常なし（がんの疑いなし）の場合

検診の結果、「異常なし（がんの疑いなし）」と判定された場合は、次回（1年後）のがん検診を受けてください。
異常なしの場合でも、気になる症状があるときは次回の検診を待つのではなく、すぐに医療機関を受診しましょう。

【気になる症状の一例】
●便に血が混じる・付着する
●急に便の太さが変わった
●便秘や下痢、その繰り返し
●腹痛や腹部のしこり　など

✿要精検（がんの疑いあり）の場合

検診の結果、「要精検（がんの疑いあり）」と判定された場合は、必ず精密検査を受けてください。
1日分でも便潜血陽性となったら精密検査を受ける必要があります。
大腸がんがあっても症状が出ないことはよくあります。「症状がないから大丈夫」などと自己判断をせずに必ず精密検査を受けましょう。

✿精密検査について

精密検査の第一選択は全大腸内視鏡検査です。
・下剤で大腸を空にした後に、肛門から内視鏡を挿入して直腸から盲腸までの全部位を観察し、がんやポリープなどの病変の有無を確認します。
・ポリープが見つかった時には状態（大きさや、形態）によって治療を行う場合もありますし、微小ポリープなど、治療をせずに次回の検診に進む場合もあります。
・がんの場合、治療の基本は内視鏡治療または手術によるがんの切除で、切除が難しい場合は薬物治療や放射線治療などが考慮されます。

参考文献：国立がん研究センターがん情報サービス 、大腸がん情報サイト、かかりつけ医のためのがん検診ハンドブック　他

公益財団法人
中国労働衛生協会